

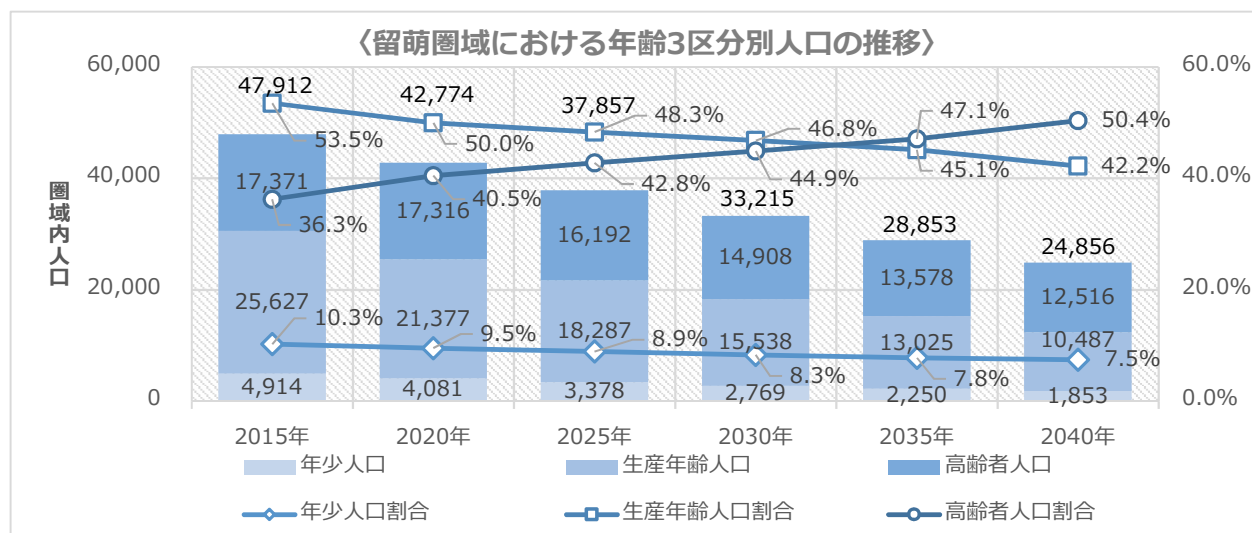
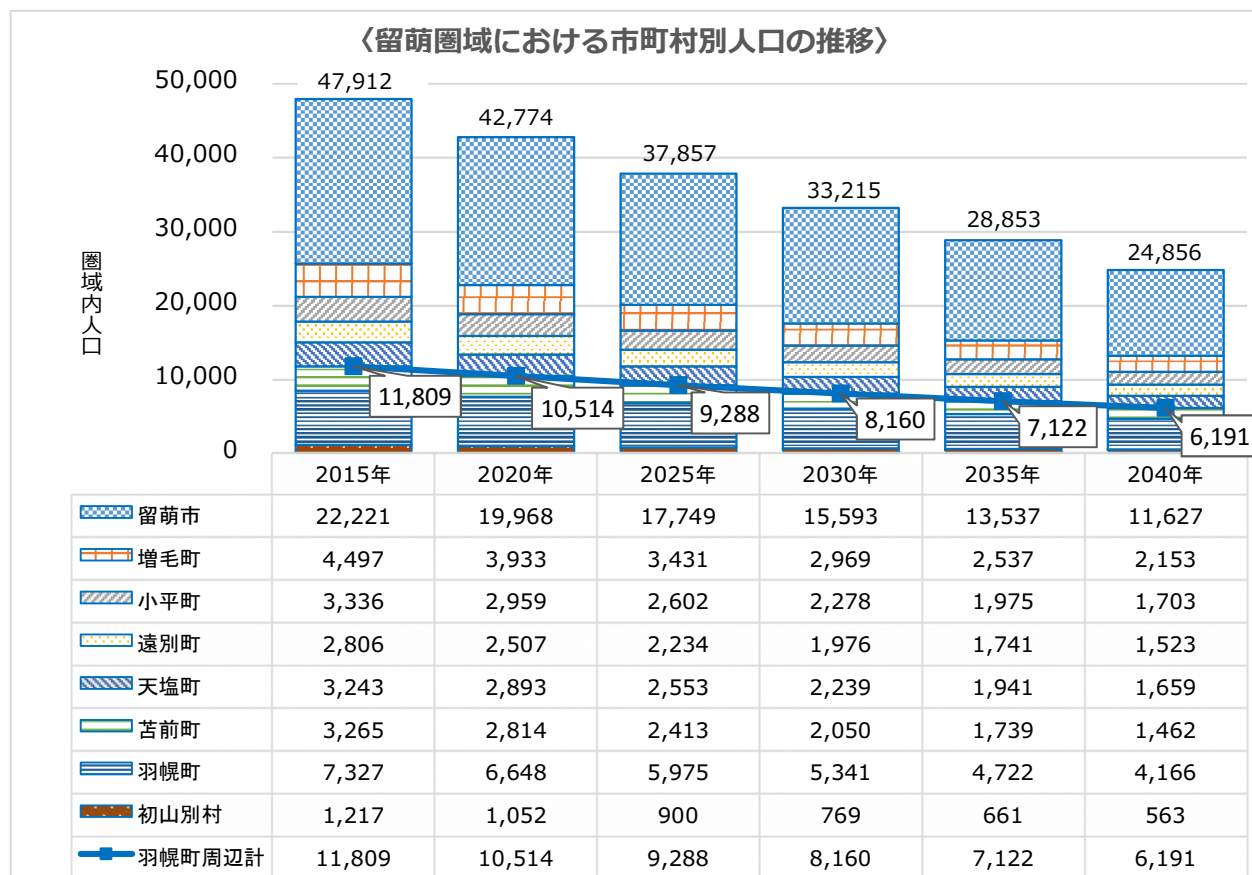
羽幌病院について

1 留萌医療圏域の現状について

(1) 圏域の人口推計

留萌圏域における人口は、2020年（令和2年）が42,774人、2025年（令和7年）には37,857人、2040年には24,856人まで減少することが推計されており、2020年から2040年の20年間でおよそ48%の人口減が見込まれている。

また、年齢構成については、年少人口割合が減少を続ける一方で、高齢者の人口割合は増加を続け、2040年には圏域内の約5割、2人に1人が65歳以上の高齢者となり、人口減少と高齢化が極めて進展した地域になることが推測されています。（※出典：国立社会保障・人口問題研究所）



(2) 入院患者受療動向

留萌圏域における入院の受療動向については、圏域内の受療が 61.6%、札幌圏域が 12.7%、上川中部圏域が 17.0%となっています。

【令和 2 年度 受療動向】

区分	留 萌	札 幌	上川中部	北空知	その他
留 萌	61.6%	12.7%	17.0%	3.9%	4.8%

(「電子レセプト情報受療動向等分析事業」(道保健福祉部))

(3) 留萌圏域の医療資源等

① 病床数・診療科目等の状況

市町村名	医療機関	許 可 病床数	常 勤 医師数	診療科目																						
				内科	循環器内科	消化器内科	呼吸器内科	外科	整形外科	産婦人科	小児科	脳神経外科	泌尿器科	精神神経科	心療内科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	麻酔科	リウマチ科	こども門科	放射線科	形成外科	病理診断		
羽幌町	道立羽幌病院	一般 120	9	○				○	○	○	○		○	○			○	○	○		○					
	医療法人社団心優会 加藤病院	療養 35	2	○																						
	医療法人社団明仁会 はぼろメンタルクリニック	無床 -																		○	○					
	道立天売診療所	無床 -									○															
	道立焼尻診療所	無床 -																								
古前町	J A 北海道厚生連 古前厚生クリニック	無床 -							○		○										○					
	医療法人社団和心会 古前クリニック	無床 -							○		○															
初山別村	初山別村立初山別診療所	無床 -									○															
	初山別村立有明診療所	無床 -									○															
	初山別村立共成診療所	無床 -									○															
	初山別村立豊岬診療所	無床 -									○															
遠別町	遠別町立国保病院	一般 16 療養 20 計 36	1						○		○	○														
	天塩町立 国民健康保険病院	一般 30 療養 18 計 48	1						○	○	○	○							○		○					
留萌市	留萌市立病院	一般 246 療養 50 計 296	24			○	○	○	○	○	○	○	○	○								○	○		○	○
	医療法人心優会 留萌記念病院	療養 117	2			○			○	○											○		○			
	医療社団法人慈恵会 わたべ整形外科病院	一般 19	2							○											○	○				
	社会医療法人孝仁会 留萌セントラルクリニック	一般 19	1			○							○									○				○
	医療法人社団明仁会 荻野病院	精神 99				○		○														○	○			
増毛町	増毛町立市街診療所	一般 19	2						○												○					
小平町	小平町立小平診療所	無床 -								○																
	小平町立鬼鹿診療所	無床 -																								

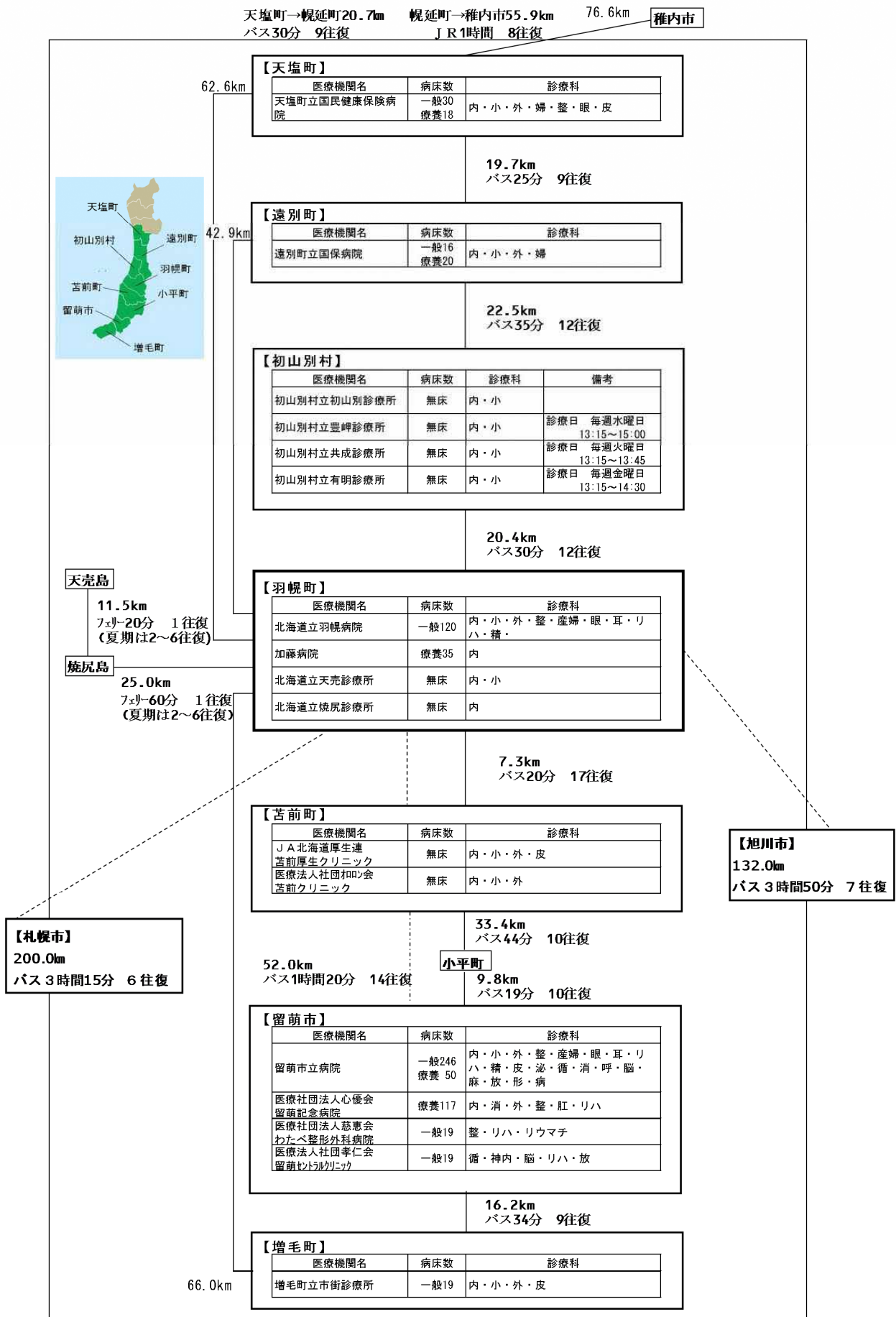
※R2 病床機能報告制度(許可病床数、常勤医師数)、北海道医療機能情報システム(診療科目)R4.4.1 現在より整理

② 各医療機関の指定の状況

市町村名	医療機関	がん診療	道がん指定	脳卒中急性期	脳卒中回復期	急性心筋梗塞	糖尿病	二次救急	災害拠点	D M A T	へき地医療拠点	へき地診療所	療センター	周産期母子医療センター	産科・婦人科 標ぼう	院内助産所 助産師外来・	小児救急医療 支援事業	道小児地域支援	小児科又は小 児外科標ぼう	病院・診療所	在宅療養支援
羽幌町	道立羽幌病院				○		○	○			○				○	○			○		
	医療法人社団心優会 加藤病院						○														
	医療法人社団萌仁会 はぼるメンタルクリニック																				
	道立天売診療所						○					○								○	
	道立焼尻診療所						○					○								○	
苫前町	J A 北海道厚生連 苫前厚生クリニック						○													○	
	医療法人社団和のん会 苫前クリニック						○													○	
初山別村	初山別村立初山別診療所											○								○	
	初山別村立有明診療所																			○	
	初山別村立共成診療所																			○	
	初山別村立豊岬診療所																			○	
遠別町	遠別町立国保病院					○	○													○	
天塩町	天塩町立 国民健康保険病院			○		○	○													○	
留萌市	留萌市立病院			○		○	○	○	○	○	○		○	○ 分娩	○	○	○	○	○	○	
	医療法人心優会 留萌記念病院						○														
	医療社団法人慈恵会 わたべ整形外科病院																				
	社会医療法人孝仁会 留萌セントラルクリニック			○			○	○													○
	医療法人社団萌仁会 狹野病院						○														
増毛町	増毛町立市街診療所					○					○								○	○	
小平町	小平町立小平診療所						○					○									
	小平町立鬼鹿診療所						○					○								○	

※北海道医療計画から道立病院局で整理

③ 各医療機関の位置関係等



(4) 現状の病床数と 2025 年の必要病床数の推計

医療機関名	許可 病床数	稼働 病床数	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
道立羽幌病院	120	45	0	60	0(15)	0	60
留萌市立病院	296	246	0	202	44	0	50
医療法人社団心優会 留萌記念病院	117	117	0	0	0	117	0
医療法人社団羽仁心優会 加藤病院	35	35	0	0	0	35	0
遠別町国保病院	36	36	0	0	0	36	0
天塩町国保病院	48	30	0	0	30	0	18
医療法人社団慈恵会 わたべ整形外科医院	19	0	0	0	0	19	0
医療法人社団孝仁会 留萌セントラルクリニック	19	19	0	19	0	0	0
増毛町立市街診療所	19	19	0	19	0	0	0
合 計	709	547	0	300	74(15)	207	128
2025 年見込み	652	—	0	300	74	168	110
必要病床数 (2025 年)	563	—	35	142	191	195	—

※各病院の現状及び 2025 年見込みは、R2 病床機能報告による（精神病床及び感染症病床は含まれない）。

※表中の括弧内の数は、北海道厚生局届出受理医療機関名簿における地域包括ケア病棟入院料又は地域包括ケア入院医療管理料算定病床数。

※2025 年必要病床数は、北海道地域医療構想による。

(5) 地域医療構想の実現に向けた取組の方向性

(地域医療構想推進シートから一部抜粋)

取組項目	目指す姿
○医療機関の機能（診療科）や体制（救急医療体制等）が一部重複していることによる役割分担等に向けた取組	○高齢化の進展に伴う疾病構造等のニーズに合った医療提供体制の見直しと、役割分担をし、医師、看護師などの医療従事者、医療資源の有効活用を図ることにより、バランスのとれた医療提供体制を調整し構築する。
○急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機能（回復期病床）の確保に向けた取組	○急性期医療終了後、円滑に回復期医療へ移行し、十分な在宅復帰のためのリハビリテーションを実施し、在宅復帰が行える医療提供体制を構築するため、地域で不足する回復期病床を確保する。
○限られた医療資源（病床や医療従事者等）を有効に活用するための医療機関の再編統合等に向けた取組	○2025 年の必要病床数を基に、医療機能の分化及び医療機関の再編・ネットワーク化を図りつつ、患者のニーズに見合ったバランスのとれた各医療機能毎の病床数を確保する。
○高齢化の進行に伴い、住み慣れた地域や自宅での生活を支えるため、その受け皿となる在宅医療等の確保に向けた取組	○在宅医療を担う医療機関の訪問診療ポータブル機器の整備支援や、「在宅医療グループ診療運営事業」に取り組む在宅療養支援診療所への支援のほか、訪問看護ステーション設置に当たっての初年度設備整備、在宅医療に従事する医療従事者の資質向上、在宅医療の担い手の確保、多職種の連携等、高齢者が安心して過

取組項目	目指す姿
	ごせるよう、本人が望む場所で過ごせる選択ができる在宅医療等の確保や環境整備を図る。
○地域（市町村）における高齢者の住まいの確保等に向けた取組	○市町村の公営住宅や空き家対策としての高齢者向けのグループホーム住宅等、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる環境の整備を図る。

2 羽幌病院の診療実績等について

(1) 沿革

年 月	内 容
S28. 8	・羽幌町から道へ移管（一般 48 床：内科・外科・小児科・産婦人科）
S50.12	・旧病院から移転（前庁舎）（一般 88 床、結核 18 床：内科・外科・産婦人科・整形外科）
	・地域センター病院として指定
H 2.12	・人工透析開始（6 床）
H17. 7	・現庁舎へ移転開設（一般 120 床、人工透析 10 床、MRI、マンモグラフィ等導入）
H20. 9	・亜急性期病床 12 床開設
H23. 5	・亜急性期病床 10 床に変更
H26.10	・亜急性期病床廃止
H28. 6	・地域包括ケア病床 12 床開設
H29. 4	・総合診療開始
H29.10	・総合診療専門研修プログラム公表（基幹施設）
H30. 7	・地域包括ケア病床 3 床増床（計 15 床）

(2) 病院概要

（令和 4 年 4 月 1 日現在）

区 分	現 行
診 療 科	内科、外科、産婦人科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、精神科、リハビリテーション科
病 床 数	運用病床 45 床（一般 45、うち、地域包括ケア病床 15 床）、透析 13(予 1) ※許可病床 120 床
職 員 数	68 名（医師 5、看護職員 37、医療技術者等 15、事務 11）
特徴等	<ul style="list-style-type: none"> ・留萌第二次医療圏における地域センター病院 ・同一圏域のセンター病院である留萌市立病院や地域の医療機関と連携を図りながら診療体制の確保に努めるとともに、人工透析を実施 ・総合診療専門研修プログラムを整備・運用 ・離島の医療支援を実施

※職員数にはフルタイムの再任用職員を含む。看護職員には助産師、准看護師を含む。

(3) 医師、看護師数等の推移

（各年度 4 月 1 日現在）

区 分	H31(R1)		R 2		R 3		R 4	
	定数	現員	定数	現員	定数	現員	定数	現員
医 師	12	8	12	9	12	8	12	5
看 護 師	44	37	44	35	44	40	44	37

※看護師には助産師、准看護師を含む。現員数には一般職非常勤及び再任用職員を含む。

資料 2 - 2

【各年度 4 月 1 日現在の現員数】

年度	医師	看護師	助産師	薬剤師	放射線技師	検査技師	臨床工学技士	理学療法士	栄養士	社会福祉士	事務職員	計
H31	8	36	1	2	4	3	2	2	1	-	10	69
R2	9	34	1	2	4	3	2	3	1	-	11	70
R3	8	39	1	2	4	3	2	3	1	1	11	75
R4	5	36	1	1	4	2	2	3	1	2	11	68

(4) 診療科別医師数及び平均患者数の推移

区分	H31(R1)	R2	R3	R4
総合診療（内科）	7(1)	8(3)	7(3)	4(1)
総合診療（外科）	0	0	0	0
小児科	1	1	1	1
合計	8(1)	9(3)	8(3)	5(1)

※括弧内は、専攻医の人数。

区分	診療科	1日平均患者数			診療体制 (R4年4月1日現在)	
		H31(R1)	R2	R3		
入院	内科	27.7	21.5	20.3	常勤 4	
	外科	0.1	0.1	0.2	非常勤	
	産婦人科	-	-	-	常勤 1	
	小児科	0.0	0.0	0.0	非常勤	
	整形外科	4.8	3.3	6.7	常勤 5	
	計	32.6	25.0	27.2		
外来	内科	105.5	100.1	100.9	常勤 4	毎日
	外科	2.8	2.6	3.9	非常勤	1/週(火)
	産婦人科	4.5	4.0	4.0	常勤 1	毎日
	小児科	8.6	4.0	4.0	非常勤	毎日
	整形外科	29.5	24.5	25.6	非常勤	第 1, 3, 5 (水)
	耳鼻咽喉科	3.3	3.0	2.8	非常勤	毎週火、月 2 回 (水)
	眼科	7.8	7.0	7.2	非常勤	1/週(金)
	皮膚科	8.3	7.7	7.2	非常勤	1/週(木)
	泌尿器科	5.9	6.2	5.8	非常勤	1/週(木)
	精神神経科	0.0	0.0	0.1	非常勤	1/週(木)
計	176.3	159.1	161.6	常勤 5		

(5) 収支状況等について

区 分		(単位)	H31(R1)		R2		R3	
			プラン	実績	プラン	実績	プラン	実績見込
収 益 的 収 支	収 益 A	(百万円)	1,143	1,095	1,141	1,132	928	1,112
	費 用 B	(百万円)	1,851	1,721	1,745	1,708	1,802	1,718
	収 支 差 C=A-B	(百万円)	▲ 708	▲ 626	▲ 604	▲ 576	▲ 874	▲ 606
経 機 営 能 指 指 標 標	病床利用率	(%)	70.2	72.5	70.2	55.5	51.8	60.5
	医業収支比率	(%)	56.3	55.9	59.5	50.3	46.8	54.0
	医薬材料費対医業収益比率	(%)	25.6	22.0	25.4	23.1	22.9	21.7
	後発医薬品使用割合	(%)	82.0	91.6	84.0	92.1	85.0	90.6
	紹介患者件数	(件)	660	711	660	717	660	819
	地域包括ケア病床利用率	(%)	70.0	67.7	70.0	56.7	70.0	56.0
	入 1日平均患者数	(人)	31.6	32.6	31.6	25.0	23.3	27.2
	院 患者1人1日当たり収益	(円)	31,078	32,447	31,078	33,706	35,520	34,161
	外 1日平均患者数	(人)	210.0	176.3	210.0	159.1	161.5	161.6
	来 患者1人1日当たり収益	(円)	11,522	11,510	11,522	12,106	11,844	12,270

3 北海道病院事業推進委員会からの評価意見

H30	<p>○平成 30 年 11 月から開始した「フレイル外来」の取組をさらに強化するなど、地元自治体や関係機関などとも連携を図りながら、患者の確保に努めること。</p> <p>○地域医療構想を踏まえ、許可病床数と稼働病床数の乖離の解消も含め、今後の羽幌病院のあり方の検討を進めること。</p>
R 元	<p>○医業収益が目標を上回るとともに、収支差が目標を達成していることは評価する。今後も総合診療医や地域医療を志す医師の人材育成に取り組むとともに、収支差の改善や経営基盤の強化に努めること。</p> <p>○地域医療構想の実現に向けて、地域医療構想調整会議等に積極的に参画し、周辺医療機関との連携強化に努めること。</p>
R2	<p>○総合診療専門研修プログラムの基幹病院として専攻医を安定的に確保できていることは評価する。今後も総合診療医や地域医療を志す医師の人材育成等に取り組み経営基盤の強化に努めること。</p> <p>○地域医療構想の実現に向けて、地域医療構想調整会議等に積極的に参画し、周辺医療機関との連携強化に努めること。</p>

4 羽幌病院の現状、課題及び方向性について

(1) 現状

- 同一圏域の地域センター病院である留萌市立病院や地域の医療機関と連携を図りながら診療体制の確保に努めています。
- 平成 29 年度(2017 年度)より総合診療科としての診察を開始しました。
- 総合診療専門研修プログラムを整備し、令和元年度 (2019 年度) 1 名、令和 2 年度(2020 年度) 及び令和 3 年度(2021 年度)に 3 名の専攻医を確保していますが、令和 4 年度 (2022 年度) は 1 名 (上半期) となっています。
- 平成 30 年(2018 年) 7 月に地域包括ケア病床を 3 床増床し、計 15 床としました。また、令和 3 年の病床利用率は、56%となっています。
- 許可病床数 (120 床) と運用病床数 (45 床) に乖離が生じています。
- 人工透析や離島の医療支援を実施しています。
- 新型コロナウイルス感染症への対応について、発熱者等の電話相談や診療のほか、受入病床を確保しています。

(2) 課題

- 許可病床数 (120 床) と運用病床数 (45 床) に乖離が生じており、病床規模の適正化や休床部分の有効活用について検討する必要があります。
- 専攻医の安定的な確保が必要です。

(3) 方向性について

- 総合診療専門研修プログラムの基幹病院として、専門研修プログラムの更なる広報、道内外勤務医師への募集活動及び視察の受け入れ等により、専攻医の確保に努めるとともに総合診療医や地域医療を志す医師の人材育成及びフォローアップ機能を担っていきます。
- 地域のニーズを踏まえながら、引き続き地域包括ケア病床の必要数を確保するとともに、地域連携室を中心とした周辺医療機関等との連携により患者の確保を図ります。
- 地域医療構想調整会議等での議論を踏まえながら、病床規模の適正化や休床部分の有効活用について検討します。
- へき地医療や離島診療支援が求められることから、ICT も活用しながら離島等の医療支援に努めます。